

生徒が学校キャラ考案

あーちゃん／けーくん／のっくん



「あーちゃん」「けーくん」と「のっくん」を考案した川澄嶺花さん（左）と堀真梨子さん＝筑西市倉持の県立明野高

筑西・明野高 地域 P R へ活用

創立40年目を迎えた筑西市倉持の県立明野高（深谷浩一校長）が、学校のマスコットキャラクターを3体作成した。37年前に甲子園に出場した野球部や応援団を表現したデザインで、当時支援してくれた地域への恩返しの意味も込めた。同校は対外活動で活用し、地域や市のシンボルとしても広めたい考え。考案した生徒は「キャラクターを通じて明野地区の特色を知ってもらえたら」と期待を膨らませた。

キャラクターは双子の兄

妹「あーちゃん」「けーくん」と野球ボールからイメージした「のっくん」。頭文字をつなげると「あけの」になる。双子はそれぞれバットとメガホンを持ち、応援団の赤色Tシャツにヒマワリのポシネットを身に着

けている。のっくんは手にヒマワリ、頭には豊かな自然を表す木が生えている。深谷校長が生徒会に制作を打診し、生徒たちが約100点を応募した。全校投票と市教委やPTA、OBたちの代表で構成した選考委員会を経て、普通科3年

の川澄嶺花さん（18）と堀真梨子さん（17）の作品に決定した。

同校は商業の授業も行っていることから、作品を商標登録してクリアファイル作製に使うことで、生徒の知的財産権への意識を高めたいとしている。

さらに着ぐるみも作って清掃活動や交通安全運動などに参加させる考え。キャラクターを地域に浸透させて「（筑西市のキャラクター）『ちっくん』とともに地域活動に貢献したい」（深谷校長）という。

選考委員会では「生徒が親しみを持てるキャラクター」「地域にお披露目を」との声があったという。須藤茂市長は「（ちっくんとともに筑西を盛り上げた）」と述べた。

川澄さんは「生徒をデフォルメして皆に好かれるようにかわいくした」と話し、堀さんとともに「明野といえば野球とヒマワリ。キャラクターから明野高と地域を知ってもらえたらうれしい」と笑顔で語った。

（溝口正則）